

【脱炭素スマート農地研究会について】

1. 背景

私たちは、国立研究開発法人科学技術振興機構社会技術研究開発センター（RISTEX）による SDGs の達成に向けた共創的研究開発プログラム（Solve for SDGs）令和 4 年度採択事業である「ソーラーシェアリングを活用した自立型脱炭素スマート農地の確立と展開」において、ソーラーシェアリング（営農型太陽光発電）を軸とした化石燃料に依存しない農地の実現を目指すための研究（以下、本研究）を行っています。今回、その研究成果を社会に広く展開・実装していくために、国内各地においてソーラーシェアリングの実践に取り組む方々と共に「脱炭素スマート農地研究会」（以下、当研究会）を発足することとなりました。

2. 研究会設立趣意

かつて、産業革命以前は農地こそが国家における富の源泉であり農作物が富そのものでした。しかし、化石燃料が広く用いられるようになってからは石炭・石油が富の象徴となり、農業・農村はその消費者という立場に変わっていきました。そして現在、気候変動対策として我が国においても脱炭素社会の実現を目指す動きが進む中で、農業生産も化石燃料依存からの脱却を図り、将来に亘って持続可能な農業生産を確保していくことが喫緊の課題となっています。加えて、農業の担い手不足も少子高齢化の進行によって深刻な問題となりつつあり、新規就農者の確保とそのための十分な収益確保を実現することが求められています。ソーラーシェアリング（営農型太陽光発電）の普及により、あらゆる農地が食料と再生可能エネルギーを同時に生み出せる場所となり、農業生産の電化による脱炭素化やスマート農業の導入による省力化・効率化の可能性が広がってきました。私たちは、農地におけるこうした取り組みによって持続可能な農業・農村の実現を目指すため、ここに「脱炭素スマート農地研究会」を発足します。

3. 研究会の活動

当研究会では、本研究において得られた脱炭素スマート農地の実現に向けた技術を広く実証していきます。会員として加わっていただいた皆さまには、それぞれが農業に取り組まれているソーラーシェアリングサイトにおいて、それらの技術を取り入れていただくほか、実施内容からのフィードバックや会員相互の交流、毎年度末に開催する活動報告会を通じてより実効性のある取り組みへの発展を図ります。

4. 研究会の会員

日本国内においてソーラーシェアリング（営農型太陽光発電）事業に取り組む法人・個人で、当研究会の趣旨に賛同する者

2024/01/04

5. 研究会の事務局

千葉大学大学院社会科学研究院倉阪研究室が事務局となり、当研究会の運営にあたり
ます。

6. 研究会の発足時期

2024年1月（予定）

7. 年会費（仮）

法人・団体：10,000円

個人：3,000円

【参考情報】

RISTEX SDGs の達成に向けた共創的研究開発プログラム（Solve for SDGs）

ソーラーシェアリングを活用した自立型脱炭素スマート農地の確立と展開

https://www.jst.go.jp/ristex/solve/project/solution/solution22_kurasakapj.html

国立大学法人千葉大学

令和4年度「SDGs の達成に向けた共創的研究開発プログラム（Solve for SDGs）」採択

https://www.chiba-u.ac.jp/others/topics/info/4sdgssolve_for_sdgs.html